

12/9 幕張支部大会 開かる

取場討議・活動を活発化させ 35体制・民託化を粉碎する



81.12.14
No.920

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆)四三三(二二)七二〇七

幕張支部通信員発

*** ** **
の黙禱をおこない、良き先輩として、われわれに与えてくれた故人の指導と教訓を継承することを含め、参加者全員で確認した。

激闘を通じて支部は強くなった
——白井支部長のあいさつ——

大会はこれに続き、菅井君を議長に選出し、議事に入った。最初に支部二三〇名組合員を代表して、白井支部長が挨拶に立ち、「一年間の激闘を通じ団結力は、より一層強固になった。その自信と確信をもって、三五万人体制粉碎・三里塚・春闘を闘っていく。」と力強く宣言し、本大会に多忙中にもかかわらず本部関川委員長、山口副委員長、林特執、鶴岡特執、更に共闘関係にある国労幕張分会・松井書記長、千葉地区労・伊藤議長、小川千葉市会議員、船橋労金島根支店長代理の各氏が駆けつけてくださり、「厳しい状況を突破し前進しよう」とそれぞれ決意みなぎる熱い連帯の挨拶がなされ、大会も、一段と盛りあがった。また千葉地区労・千葉車両整備会社労組からも激電が寄せられた。

動労千葉最大支部にふさわしい 活発な討論を展開

会場全体が熱気にあふれる中、総括と財政方針が執行部から提案され、ただちに質疑応答に入った。それぞれの代議員から真摯な質問・意見が出されその都度会場から「異議ナシ」の声援が飛んだ。各代議員の発言要旨は次の通りです。

「三五体制合理化攻撃は、乗務員にも押し寄せてきている。乗務員分科として、主体性をもちながら支部と一体となってこれに抗し闘ってゆく。」
伊藤氏(乗務) 「第二マル生攻撃が加えられている中、「マル生」とは何かについて学習を深めてほしい」伊藤氏(検修) 「三里塚闘争は、労働運動・住民闘争の中心課題であり、青年部は、三里塚二期二三・二八に向けてがんばる。支部ももっと取り組みを強化してほしい」国藤氏(検修) 「動労『本部』が合理化に賛成している中で、反合闘争は厳しいが、検修・検査の民託化攻撃阻止については、単にかけ声に終らせないで断固として闘おう」高橋氏(検査) 「八二春闘について、動労千葉としていかに再構築して闘うのか、」宇田川氏(検査)等、実践的立場からの発言があ

十二月九日、電車区食堂において、第四回支部定期大会を成功裡にかちとった。大会冒頭、正川組織部長の音頭で、故黒川甲子男氏を追悼する一分間職場集会などで充分討議を深めることを確認した。続いて方針提起に入り、本大会以降の闘い、とりわけ来年三月、三里塚・春闘の構築に向けて提案され、この中で特に、強調された内容として、動労「本部」革マル反動分子の追従者・銚子内の一部悪質分子に対する入区時の追及を強めることをあきらかにし、動労千葉に敵対する分子に対する糾弾をあきらかにし、満場一致で方針が採択された。幕張支部二三〇名は白井支部長のもと動労千葉一三〇〇の最先頭で闘うことを全体で確認し、成功裡に終了した。

12月2日 幕張支部乗務員分科 会総会開かる

乗務員分科会は、国労との共合区というところでそれぞれ方針の違い等ありますが、共に闘う立場としての国労の仲間との討論を通し、労働者の秩序を維持し、共闘しています。この間反合・職場改善を着実に積み重ねてくる中から、団結も強化され、今後の闘いを決意しながら総会をかちとることができました。これを基礎に今後も乗務員分科会は大いに奮闘してゆくことを全体で確認しました。尚決定された支部乗務員分科会役員は次の通りです。

- | | |
|------------|------|
| 支部乗務員分科会 長 | 伊藤吉郎 |
| 副会長 | 岸康夫 |
| 事務長 | 阿津栄作 |